

厚生労働科学研究費補助金
肝炎等克服緊急対策研究事業

肝炎等の早期克服のための研究の総合的推進に関する総括研究

平成 17 年度 総括研究報告書

主任研究者 三 宅 智

平成 18(2006)年 3 月

目 次

I. 総括研究報告

肝炎等の早期克服のための研究の総合的推進に関する研究

(資料) ①平成 17 年度新規採択課題

②平成 17 年度肝炎等克服緊急対策研究事業における課題採択方針

③平成 17 年度終了課題

④平成 17 年度継続課題

⑤平成 18 年度新規採択課題

⑥平成 18 年度肝炎等克服緊急対策研究事業における課題採択方針

II. 分担研究報告

1. 肝炎等の早期克服のための研究の総合的推進に関する研究(分担報告)

厚生労働科学研究費補助金(肝炎等克服緊急対策研究事業)

総括報告書

平成17年度 肝炎等の早期克服のための研究の総合的推進に関する研究

主任研究者 三宅 智 国立感染症研究所 企画調整主幹

研究要旨

肝炎対策研究の専門家からなる委員会を設け、肝炎等克服緊急対策研究事業の適正かつ円滑な実施を図った。また、肝炎研究の企画評価に必要な情報収集、調査を行った。

分担研究者

勝二 郁夫 (国立感染症研究所)

鈴木 哲朗 (国立感染症研究所)

研究協力者

大日 康史 (国立感染症研究所)

研究結果概要

A. 研究目的

肝炎等克服緊急対策研究事業を効果的に実施するには、適切な課題の設定、最適な研究者の選考、公正な研究費の配分、そして厳密な研究成果の評価が不可欠であり、肝炎研究の専門家からなる委員会でこれを行う。また、企画評価に必要な情報収集、調査を行う。

B 研究方法

肝炎研究の専門家から構成される

評価委員会（以下「評価委員会」という。）を組織し、

- 1) 研究者の選考及び研究費の配分審査の決定。
- 2) 研究課題の設定。
- 3) 研究成果で、特に、中間・事後の研究については、発表会を実施し、併せて全研究課題の評価をおこなう。
- 4) 肝炎研究の企画評価に必要な情報収集、調査を行う。

C 研究結果

- 1) 平成18年度肝炎研究事業に

における課題採択方針を策定した。

- 2) 平成 17 年度研究終了課題の事後評価を行った。
- 3) 平成 17 年度継続研究課題の中間評価を行った。
- 4) 平成 18 年度肝炎研究事業における新規課題採択方針を策定した。
- 5) 肝炎等克服緊急対策研究事業の企画評価に必要な情報収集、調査を行った。

D 結論

肝炎等克服緊急対策研究事業の企画評価のために必要な肝炎に関する情報収集、調査を行い、企画評価に役立てるとともに、研究事業の評価方法に関する資料の収集・分析及び評価委員会の運営を通して、より適切な評価を行うための手法について有益な所見が得られた。

平成 18 年度肝炎等克服緊急対策研究事業 継続・新規課題の評価結果の分析

専門評価と行政評価の相関について

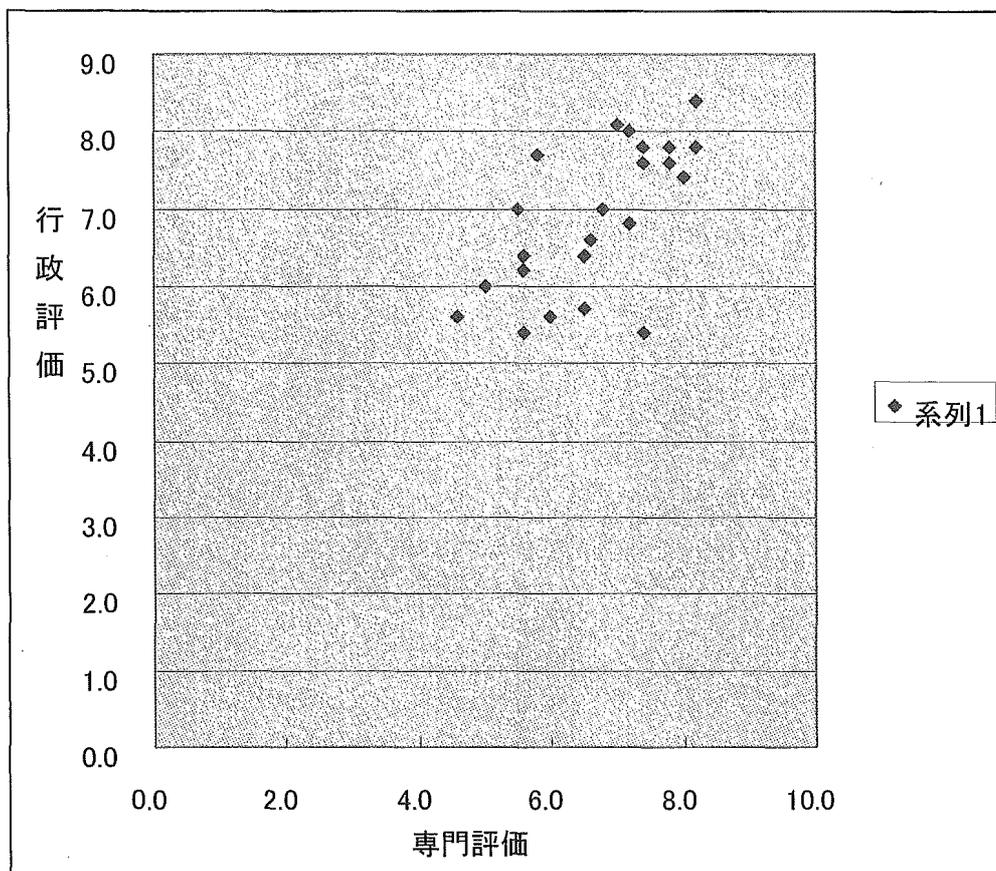
18 年度に実施する肝炎等克服緊急対策研究事業の継続課題及び新規課題の全研究課題に対して、実施された評価結果を、専門評価と行政評価の別々に見ると、表 1 のとおりであった。専門評価の平均点は 6.7 であり、行政評価の平均点は 6.9 であった。専門評価と行政評価をグラフにしたものが図 1 であるが、専門評価と行政評価は比較的良好に相関していた。相関係数は 0.654 で、回帰係数は 0.7152、相関係数の確率値は 0.001 でよく相関していた。

平成 17 年度終了課題の評価結果の推移については単一の課題なので統計的分析は省略した。

表1. 専門評価と行政評価結果（平成17年度肝炎等克服緊急対策研究事業）

専門評価	行政評価
7.2	8.0
5.5	7.0
5.0	6.0
6.5	5.7
5.8	7.7
6.5	6.4
7.0	8.1
7.8	7.6
8.2	7.8
7.4	7.6
8.2	8.4
5.6	6.4
5.6	5.4
7.2	6.8
6.8	7.0
7.4	7.8
7.8	7.8
6.6	6.6
4.6	5.6
6.0	5.6
7.4	5.4
5.6	6.2
8.0	7.4

図1. 専門評価と行政評価の相関分析結果



平成 17 年度新規採択課題

No	主任研究者	所属施設	職名	研究課題
1	茶山 一彰	広島大学大学院医歯薬学 総合研究科	教授	C 型肝炎新規治療開発に資するプロテオーム 解析を用いた治療標的分子の網羅的検索系と ヒト肝細胞キメラマウス HCV 感染モデルを用い た実証系の開発に関する研究
2	宮村 達男	国立感染症研究所ウイル ス第二部	部長	C 型肝炎の治療とキャリアからの発症予防に関 する基礎研究
3	大戸 斉	福島県立医科大学医学部	教授	C 型肝炎ウイルスの母子感染防止に関する研 究
4	脇田 隆字	東京都医学研究機構東京 都神経科学総合研究所	副参事研 究員	培養細胞で感染複製および粒子形成が可能な C 型肝炎ウイルス株を利用したワクチン開発
5	八橋 弘	国立病院機構長崎医療セ ンター臨床研修センター治 療研究部	部長	肝硬変に対する治療に関する研究
6	青柳 豊	新潟大学教育研究院医歯 学系	教授	L3 分画および流血中癌細胞テロメラーゼを指 標とした肝細胞癌のサーベイランスの有用性
7	木下 平	国立がんセンター東病院	外来部長	新規癌胎児性抗原を利用した肝細胞癌の診断 と治療

平成 17 年度肝炎等克服緊急対策研究事業における採択方針

課題番号	公募研究課題の内容
17200101	C型肝炎の治療とキャリアからの発症予防に関する基盤研究
17200201	C型肝炎の院内感染防止に関する研究
17200301	B型及びC型肝炎の母子感染防止に関する研究
17200401	C型肝炎に対するワクチンの開発に関する研究
17200501	肝硬変に対する治療に関する研究
17200601	輸血後肝炎の疫学的動向と治療に関する研究
17200701	肝細胞がんの予後の改善に係わるサーベイランスの有効性に関する研究
17200801	予後改善を目指した進行肝細胞がんの集学的治療に関する研究
17200901	肝細胞がん化学療法への適応と有効性に関する研究

平成 17 年度終了課題

No	主任研究者	所属施設	職名	研究課題
1	三代 俊治	東芝病院研究部	部長	本邦に於けるE型肝炎の診断・予防・疫学に関する研究

平成 17 年度継続課題

No	主任研究者	所属施設	職名	研究課題
1	河田 純男	山形大学医学部	教授	B型及びC型肝炎ウイルスの新たな感染予防法の確立のための感染病態解明に関する研究
2	林 紀夫	大阪大学大学院医学系研究科	教授	B型及びC型肝炎ウイルス感染者における新たな発がん予防法の確立のための肝がん発生等の病態解明に関する研究
3	吉澤 浩司	広島大学大学院医歯薬学総合研究科	教授	B型及びC型肝炎の疫学及び検診を含む肝炎対策に関する研究
4	熊田 博光	虎の門病院	副院長	B型及びC型肝炎ウイルスの感染者に対する治療の標準化に関する臨床的研究
5	佐藤 田鶴子	日本歯科大学歯学部	教授	歯科診療におけるB型及びC型肝炎防止体制の確立に関する研究
6	門田 守人	大阪大学大学院・医学系研究科 病態制御外科	教授	C型肝炎への肝移植後の免疫抑制法に関する研究
7	高田 泰次	京都大学医学部附属病院移植外科	助教授	生体肝移植後のC型肝炎再発予防を目指したステロイド剤不使用による免疫抑制療法に関する研究
8	沖田 極	山口大学医学部	教授	病期別にみた肝がん治療法の費用効果およびQOLの観点からみた有効性に関する研究
9	小俣 政男	東京大学大学院医学系研究科	教授	予後改善を目指した肝臓がん再発に影響を与える因子に関する研究

平成 18 年度新規採択課題

No	主任研究者	所属施設	職名	研究課題
1	三代 俊治	東芝病院研究部	部長	E 型肝炎の感染経路・宿主域・遺伝的多様性・感染防止・診断・治療に関する研究
2	秋葉 隆	東京女子医科大学血液浄化療法科	教授	透析施設における C 型肝炎院内感染の状況・予後・予防に関する研究
3	井上真奈美	国立がんセンターがん予防・検診研究センター	室長	C 型肝炎の状況・長期予後の疫学像の解明に関する研究
4	藤原 研司	独立行政法人労働者健康福祉機構 横浜労災病院	院長	肝がん患者の QOL 向上に関する研究
5	小池 和彦	東京大学医学部附属病院	教授	肝炎ウイルス感染の肝外病変の基礎的及び臨床的包括研究

平成 18 年度肝炎等克服緊急対策研究事業における採択方針

課題番号	公募研究課題の内容
18230101	E 型肝炎の感染経路の解明に関する研究
18230201	C型肝炎の状況・長期予後の疫学像の解明に関する研究
18230301	肝炎ウイルス感染の肝外病変の基礎的及び臨床的包括研究

厚生労働省科学研究補助金（肝炎等克服緊急対策研究事業）

肝炎等の早期克服のための研究の総合的推進に関する総括研究（分担報告）

分担研究者 勝二 郁夫（国立感染症研究所ウイルス２部）
鈴木 哲朗（国立感染症研究所ウイルス２部）

研究要旨

肝炎研究に関する資料及び情報の収集・分析を行い、肝炎等克服緊急対策研究事業のより効果的な企画、評価及び推進方法について検討した。

A 研究目的

肝炎等克服緊急対策研究事業においては、学術的のみならず、その研究結果を肝炎対策にできる限り直接に反映することが望まれる。すなわち、肝炎ウイルスと免疫応答や生体反応などの基礎的な研究に加え、予防、診断、治療等の対策上の効果についても適切に評価する必要がある。そのため、「肝炎等克服緊急対策研究事業」において、肝炎研究の評価のための情報収集、調査を実施し、適切な評価のあり方について検討することを目的とした。

B 研究方法

研究事業の企画、評価および肝炎研究に関する資料の収集・分析を行い、平成 17 年度肝炎等克服緊急対策研究事業における事前評価委員会及び中間・事後評価委

員会の運営を通じて、計画性の妥当性、研究継続能力、厚生労働行政への貢献度等を中心に、適切な企画、評価のあり方について検討した。また、研究協力体制の構築も重要であることから、海外においても調査を実施した。「第 1 2 回 C 型肝炎ウイルス並びに関連ウイルスに関するシンポジウム」に勝二、鈴木が出席し情報収集・調査を行った。

C 研究結果

一般的に、研究評価を行う際には、評価の時期、評価の目的、評価項目（対象）、評価を行う者の選定、評価方法について検討し、それぞれの研究特性に適合した組み合わせを用いることにより行われる。平成 17 年度肝炎等克服緊急対策研究事業においては、昨年度に続き、事前評価委員会及

び中間・事後に関しては、主任研究者からこの間における研究成果の発表いただき、併せて評価委員会を実施した。また、その実施にあたっては、他の研究事業との比較・検討及び過去の問題点等を踏まえ、改善を試みた。

D 結論

肝炎等克服緊急対策研究事業の企画評価のために必要な肝炎に関する情報収集、調査を行い、企画評価に役立てるとともに、研究事業の評価方法に関する資料の収集・分析及び評価委員会の運営を通して、より適切な評価を行うための手法について有益な所見が得られた。